

♠ 境川行 ♣

※「境川」とは東京都町田市の奥から神奈川県江ノ島辺りにそそぐ2級河川です。藤沢市辺りでは見事な桜並木が川堤を飾り、私はヤクザどもに苛まれる毎日の憂さをこの川堤行で癒しました。うっ屈の日々の中、唯一のやすらぎでした…。

多谷 昇太

うっしにはけふが梅雨の仕舞ひともカッとはかりに日差しさいなむ

うらやまし犬をともつれ散歩の婦なにさわりなく日々送るらし

酷暑中川堤行けばなにやらむジャンニスツキの心に響く

老いてひとり我は何もの何しをる委細問ふなよ川にならずらへ

川よ川ながれよながれよたるやかにジャンニスツキを汝(な)こそは歌へ

いまははた黄金の穂波みごとなり葉月の風にたわわにゆれる

※境川の片面には一面の水田が広がっていたのです。二毛作でした。

みなづきの風に遊びぬしいささ苗いまぞみのりて主食の威ぞ充つ

東(ひんがし)にいかづち光り鳴るを聞き西に黎明薄暮たつ見ゆ

おぼろなる七日の月のかかるなり傾(かし)があるははた「な負けそ」か

七日月けふはさやけし倫とあり受けずやその意眠たかりとも

家の灯（ひ）も街の灯（ともしび）もほのぼのし豊
けき街の豊けくぞ見ゆ

ヤクザらはおよそ菌糸体つるみてはひとつものごと
と我をカビさす

冬ごとき晩夏の氷雨おそい来るけふはいづこに行
くべくもなし

※ヤクザどもの睡眠妨害の程度次第では家で寝られません。今晩は
公園で…とも思いますがいにくの雨でした。

老ひし身の片目不随の我にてはやすけき仕事も為
すべくもなし

時は待たじつねに先来るあの時もそして今も我は
おそびと

※私は某宗教団体に所属していますが毎日のうつ屈の中でその
大事な講演会を失念していました。そんな折り姉からのメール
老人ホームにいる母の葬式について。長男失格、会員失格、不
甲斐ない私です…。

唐突に余命三月と宣せられしガン臥所いづこ、あな
にやし

その右目国にささげて帰り来ぬ現世は地獄片目ほ
ど和ぐか

※歌人の山崎方代を詠む。彼は応召して戦争で片目を失いました。
その為に帰国しても容易に職に付けません。戦後も地獄、片目
ほど和わらぐでしょうか…？

ヤクザごつ罵り尽くす塵の世に抗ひ行くを方代に
問はむ

※公園などで寝れば市民らの「ブータロー」のオンパレードです。
反抗心を抱きますが、はて、方代は違っていた筈。この違いは
…？

ひとはみなどもきしろかも少なくとも毎夜寝らるる
我のみエルム

うつつだにさせぬ馬頭らのわざすさぶああ苦しき
は我、我、寝かぬ

眠い、眠い、ただ眠い、いま三時…なにゆえ我はフ
レデイ間に間に？

働きて我が身我がこと開きたしさと見るからに魔
どもがふさぐ

※どんなに酷い環境にいようと働かねばなりません。毎日遊び
呆けた悪党どもの障害中にいようと。

図書館かこの公園かわが寝場所つられけれどよも行
かじ背理の道へ

ベランダに秋の陽すがし風すがしなにこともなく
この日はあれな

※馬頭どもの気分次第で寝れることもままあります。昨晚がそう
でした。秋晴れのこの日に、久方気分は爽快です。

花菖蒲コスモス咲きて気は澄みてなにさはりなく
川堤行くよ

※コスモスの美しさと醸す空間が大好きです。思わず微笑む…。
※ヤクザらとの事次第は「あおむしさん」の「二葉恋慕」をどう
ぞ。



桜満開頃の境川川堤のこの美しさです。スマートフォンで撮りました。
和歌はいくつでも作れますよ。皆様もいかがですか？